問１　嘉手納基地は、現在米空軍、米海軍、米海兵隊の無人偵察機が配備されています。周辺自治体、住民の不安や懸念を解消するための防衛省の取り組みを伺います。

１．戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面し、周辺国の軍事活動が活発化する中、南西地域を含む我が国周辺における情報収集・警戒監視・偵察（ＩＳＲ）活動は、我が国の安全保障の観点から極めて重要です。

２．その上で、空軍ＭＱ－９、海軍ＭＱ－４※及び海兵隊ＭＱ－９による航空機騒音については、

○　空軍及び海兵隊ＭＱ－９のエンジンは、小型民間機と同等であり、海軍ＭＱ－４※についても、比較的小型の民間航空機（小型民間機）に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ、周辺地域への騒音の影響は少なく、

○　両方とも、その任務の特性上、頻繁な離着陸は必要とせず、離陸後は速やかに洋上に進出するほか、住宅密集地を極力避けて飛行しており、騒音による影響は限定的であるほか、

○　空軍ＭＱ－９及び海兵隊ＭＱ－９、海軍ＭＱ－４※の運用については、パパループや旧海軍駐機を使用せず、近隣住宅地から相当離れた場所に駐機されるようになっており、当該無人機配備によって、既存の他の航空機をパパループや旧海軍駐機場に移動させる計画もない、

と承知しています。

※本年５月から一時展開していた海軍ＭＱ－４トライトン（２機）については、１０月中旬に撤収したことを確認している。

３．当局としては、地元の皆様のご不安やご懸念を解消すべく、今後とも米側に対し、地域の実情を理解の上で、騒音の低減及び運用の安全面の確保等、一層の協力をするよう粘り強く働きかける

など、可能な限り基地負担の軽減に努めてまいります。

問２　米海兵隊ＭＱ－９の配備の必要性・目的について伺います。

１．戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面し、周辺国の軍事活動が活発化する中、情報収集・警戒監視・偵察（ＩＳＲ）活動はますます重要になっております。特に、優れたＩＳＲ能力を有する米軍との協力は、我が国の安全保障の観点から極めて重要です。

２．日米の様々なレベルでの議論を踏まえ、日米同盟の情報収集能力を向上させる一環として、米軍は、２０１４年以降、空軍ＲＱ－４を、また、２０２１年以降には、海軍ＭＱ－４を、グアムから日本に展開してきました。

３．嘉手納飛行場においては、昨年（２０２３年）１１月から、空軍ＭＱ－９が期間の定めなく展開しているところであり、また、本年（２０２４年）５月から１０月までの間、海軍ＭＱ－４トライトンが一時展開しておりました。

※本年５月から一時展開していた海軍ＭＱ－４トライトン（２機）について、１０月中旬に撤収したことを確認している。

４．こうした中、米軍は、ＩＳＲ活動の一層の強化を目的として、本年８月から約１年間、嘉手納飛行場に６機以下の海兵隊ＭＱ－９を一時展開しております。

５．こうした米軍によるＩＳＲ活動の強化の取組は、南西諸島周辺をはじめとする我が国周辺海域における継続的な情報収集活動を適切に行うことに資するものであり、本年７月の日米２＋２でも確認された日米のＩＳＲにおける協力関係の一層の深化につながるものと認識しています。

問３　現在、嘉手納基地に配備されている米空軍ＭＱ－９、米海軍ＭＱ－４への影響について伺います。（軍種間連携、統合したＩＳＲ活動等があるのか等）

※嘉手納基地において、この度新たに配備される海兵隊ＭＱ－９と、既に配備されている無人機との関わりについて、括弧書きの内容を確認。

１．米軍においては、各軍種間で平素から様々なレベルで連携を行っているものと承知しておりますが、これ以上の詳細については、米側の運用に関することであり、お答えは差し控えます。

問４　嘉手納基地に配備されている米海軍ＭＱ－４の配備期間に影響はあるのか伺います。

１．米側からは、海軍ＭＱ－４の一時展開は、本年５月から本年１０月までであり、１０月末を超えて展開を継続する計画は無いとの説明を受けており、海兵隊ＭＱ－９の一時展開が海軍ＭＱ－４の一時展開の期間に影響を与えることはないと認識しています。

※本年５月から一時展開していた海軍ＭＱ－４トライトン（２機）について、１０月中旬に撤収したことを確認している。

問５　米海兵隊ＭＱ－９の配備の嘉手納基地への配備期間について伺います。

１．米側からは、海兵隊ＭＱ－９の一時展開について、本年８月から約１年間との説明を受けております。

２．なお、今回の展開は、昨年１１月から期間の定めなく展開している空軍ＭＱ－９とは異なり、あくまでも一時的な展開であるとの説明を受けています。

問６　米海兵隊ＭＱ－９は武器搭載可能なのか伺います。

１．嘉手納飛行場に展開する海兵隊ＭＱ－９については、我が国周辺海域における情報収集・警戒監視・偵察（ＩＳＲ）活動を行うことを目的として運用されるものであり、攻撃などの目的で展開を計画しているものではありません。

２．その上で、米側からは、空軍ＭＱ－９と同様、機体は情報収集用の仕様となっており、弾薬を搭載しての運用をする計画はなく、非武装との説明を受けております。

問７　米海兵隊ＭＱ－９の過去１５年間の事故発生状況及び事故防止対策について伺います。

１．米海軍安全センターが公表している資料によれば、海兵隊ＭＱ－９に関して、これまでにクラスＡ事故は確認されておりません。

※クラスＡ事故とは、被害総額が２５０万ドル以上（２００９．１０～２０１９．９の事故については２００万ドル以上、それ以前の事故については１００万ドル以上）、航空機の損壊、あるいは、死亡又は全身不随に至る障害もしくは職業に起因する病気等を引き起こした事故のことを指す。

問８	在沖米海兵隊のグアム移転が進められる中、なぜ嘉手納基地へ米海兵隊所属機を配備するのか、理由を伺います。
問９	嘉手納基地以外の米海兵隊基地（岩国、普天間、韓国、グアム、ハワイ）への配備は検討されたのか伺います。

１．米側からは、他の米軍基地についても、検討を行ったとの説明を受けておりますが、検討対象となった具体的な基地名や当該基地に係る評価については、個々の基地の能力等が明らかになるおそれがあるため、お答えできないことをご理解ください。

２．その上で、南西地域周辺海空域等での情報収集ニーズに対応する必要性が高いこと、ＭＱ－９の運用に必要な施設・設備、対応する現地部隊の状況等を踏まえ海兵隊ＭＱ－９について、嘉手納飛行場へ一時展開させることとしたとの説明を受けています。

問１０	米海兵隊ＭＱ－９の指揮系統、所属部隊名、隊員の規模及び管理体制、隊員への教育内容、滞在する場所について伺います。

１．本計画における海兵隊ＭＱ－９の所属部隊は、ハワイ州のカネオヘベイ航空基地に所在する第３海兵無人機飛行隊（ＶＭＵ－３）です。展開に当たり新たに配置される人員は、数名の軍人、整備支援業者約２０名と承知しております。

２．米側は、ＭＱ－９の展開に伴い我が国に派遣される米軍関係者全てに対し、我が国の習慣や法律について教育を行うとともに、派遣中においても、事件・事故が発生することがないよう徹底して管理するとしています。防衛省から米側に対しても、ＭＱ－９の我が国への展開期間を通じ、規律やモラルを守った行動を継続的に求めていく考えです。

問１１　米海兵隊ＭＱ－９の操作は、どのように行われるのか伺います。

１．米側からは、嘉手納以外からの遠隔操縦も想定されるとの説明を受けておりますが、これ以上の詳細については、米軍の運用に関することであり、お答えは差し控えます。

問１２	米海兵隊ＭＱ－９の配備により、嘉手納基地内の駐機スペースの不足が懸念されます。旧海軍駐機場、パパループ等を使用しないのか、駐機場所についてお伺いします。

１．米側からは、現時点では、海兵隊ＭＱ－９の駐機場として、パパループや旧海軍駐機場を使用する計画はなく、住宅地から相当離れた場所を使用するとの説明を受けています。

２．今回の海兵隊ＭＱ－９の一時展開により、既存の他の航空機をパパループや旧海軍駐機場に移動させる計画はないと承知しています。

問１３	嘉手納基地において、米空軍、米海軍、米海兵隊の無人偵察機が同時期に配備されます。米軍のＩＳＲ活動の拠点が嘉手納基地に統合される計画があるのか伺います。

１．米側からは、海軍ＭＱ－４の一時展開期間については、本年５月から本年１０月までの間※、海兵隊ＭＱ－９の一時展開期間については、本年８月から約１年間と説明を受けており、あくまでも運用所要を満たすための一時的な展開であると承知しております。

※本年５月から一時展開していた海軍ＭＱ－４トライトン（２機）について、１０月中旬に撤収したことを確認している。

２．お尋ねのような、「米軍のＩＳＲ活動の拠点が嘉手納基地に統合される計画」について承知しておりません。

問１４　米海兵隊ＭＱ－９の運用にあたって、周辺地域への影響を抑えるためにどのような対策を講じるのか伺います。

１．海兵隊ＭＱ－９は、日本の南西地域周辺をはじめとする我が国周辺海域において、複数機を連続的に運用することにより、継続的に情報収集、警戒監視及び偵察活動（ＩＳＲ活動）を行うため、夜間、早朝における運用も想定されます。

２．しかしながら、海兵隊ＭＱ－９は、有人機と比べて、長時間にわたって継続的な飛行ができるのが特徴であり、頻繁な離着陸が行われることは想定されておりません。

３．また、その任務は我が国周辺海域での情報収集であるため、飛行場周辺での飛行は、離着陸時など、最小限になるものと想定しています。

４．また、海兵隊ＭＱ－９の展開にあたっては、日米間でしっかりと協議し、騒音問題に関する地元の御懸念を伝えてきており、住宅密集地を極力回避して飛行するほか、パパループや旧海軍駐機場に駐機するのではなく、近隣住宅地から相当離れた場所の使用を計画しています。

５．防衛省としては、騒音問題に関する地元の皆様の切実な声を真摯に受け止め、今後とも米側に対し、騒音規制措置の遵守や嘉手納飛行場周辺における騒音の低減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、訓練移転や住宅防音工事や公共施設の防音助成などをしっかり進めるなど、引き続き、嘉手納飛行場における航空機運用による地元への影響ができるだけ最小限となるよう、しっかりと取り組んでまいります。

問１５	嘉手納基地へ米海軍ＭＱ－４が配備される際の三連協から沖縄防衛局への質問の中で、「さらなる無人偵察機等の一時展開の計画はあるか？」との質問に「そのような計画は承知しておりません」と回答があります。(R6.6.11) その約２ヶ月後に米海兵隊ＭＱ－９の一時配備が周辺自治体へ伝えられました。嘉手納基地への米海兵隊 MQ-9 の一時配備について、国は、いつ米軍から情報提供を受けたのか伺います。

１．我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、日米同盟の抑止力・対処力を一層強化するため、平素から米側との間で様々な議論を行っています。米側との具体的なやりとりについては、お尋ねの点も含め、相手方との関係もあり、お答えは差し控えます。

２．その上で、防衛省としては、引き続き、米側と緊密に連携しつつ、所要の調整や準備を経た上で、地元の皆様に対する丁寧なご説明や適切な情報提供に努めてまいります。

問１６	嘉手納基地は、航空機騒音、米兵による事件事故の基地問題を抱えているほか、パラシュート降下訓練の実施、米空軍、米海軍の無人偵察機配備など、過密な運用が危惧されます。 嘉手納基地の基地負担の軽減について、国の見解を伺います。

１．防衛省としては、嘉手納飛行場の運用による負担の軽減を図ることは重要な課題であると認識しております。

２．中でも、航空機の騒音は、周辺住民の皆様にとって深刻な問題であり、その負担軽減を図ることは重要な課題であると認識しております。このような認識のもと、航空機騒音を軽減するための取り組みとして、

○　米軍に対し、航空機騒音規制措置の順守や、土日に加え、年末年始や入学試験等の地元の重要な行事に配慮するよう申し入れを行い、

○　また、航空機の訓練移転を着実に積み重ねていくことにより、嘉手納飛行場における訓練活動の影響の軽減に努め、

○　住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る各種施策を講じる、

といったことも通じて、周辺住民の方々のご負担を可能な限り軽減できるよう努めているところです。

３．防衛省としては、今後とも、米側に対し、地域の実情を理解した上で一層の協力をするよう粘り強く働きかけるとともに、先ほど申し上げた施策を実行していくことにより、可能な限り基地負担の軽減に努めてまいります。

以　上